

雜報

第三十五回文科學術談話會記事

大正五年六月十日

校長先生、下村先生、垣内先生、土屋先生、千葉先生が御來會下さいました。

他に外來の方が御一名、附屬の先生も御見えになりました。

いつもに比して、多くの先生方が御出で下さいましたことを、非常に悦びながら、むし暑い曇天の午後一時、講堂に於て、次の様なプログラムで開會致しました。

- 一 開會の辭
- 二 感想
- 三 詩と宗教
- 四 傳説と文學
- 五 前赤壁の賦(漢文朗讀)
- 六 七夕の話
- 七 經驗的人生と生物學的倫理觀
- 八 閉會の辭

文二	植野
文四	三浦
文三	山口
文二	平山
文四	木下
文二	大橋
文四	千葉

最後の千葉先生の御話は、幼稚な私共の心に、慥かに一段の向上を畫せしめたことを、深く悦び、且つ謹んで御禮申し上げます。

會計報告

大正五年度第一學期決算

一、收入之部

内	前學年度より繰越高	八〇、〇四
内	贊助員會費	三三、八七
	會員會費	四三、九五
	計	一五七、八六

一、支出之部

内	會報第十四號印刷代	四四、〇三
内	同發送切手代	五、〇〇
	雜費	一、二〇
	計	五〇、二三

一、差引残高

一〇七、六三

五の漢文朗讀と六の談話とは、全く番外のものでございました。今度はじめて飛び入りのあつた事が、非常に嬉しうございます。これからもごしごし進んで、皆様の潑刺たる御氣焰をおあげ下さる事を望みます。今回は約四時間半といふ長時間にわたり、何れも立派な研究で、内容の充實した學術談話會といふ名にふさわしい會でございました。長く餘韻を引いたあの赤壁の賦の音調と、七夕の話の態度とを忘れる事が出来ません。(地久節の夜 幹事)